

2024年3月期 決算説明資料



 日本高純度化学株式会社

証券コード：4973

2024年4月24日





決算の概況

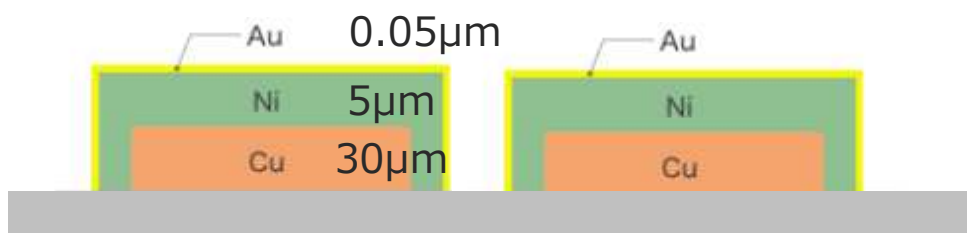
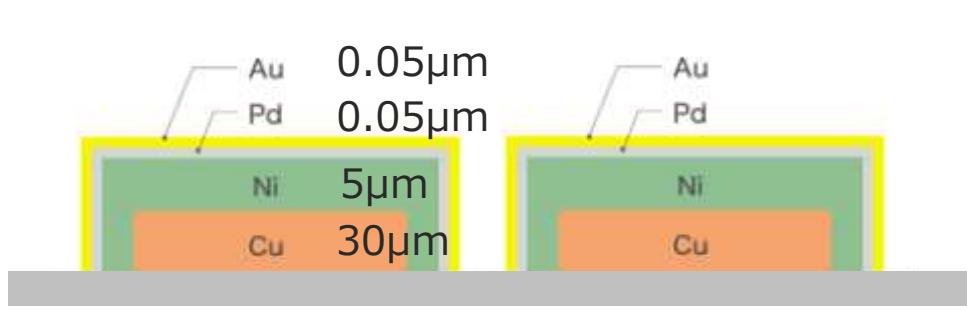
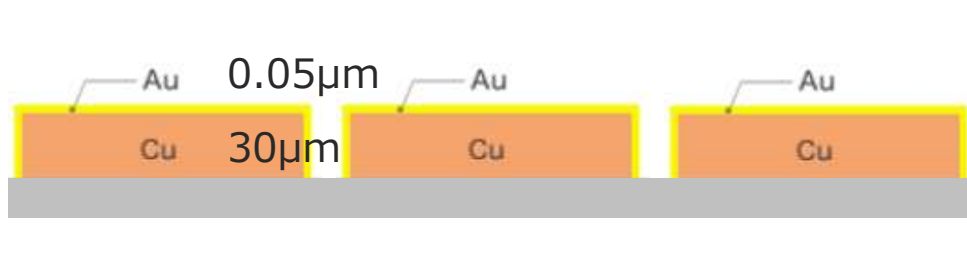
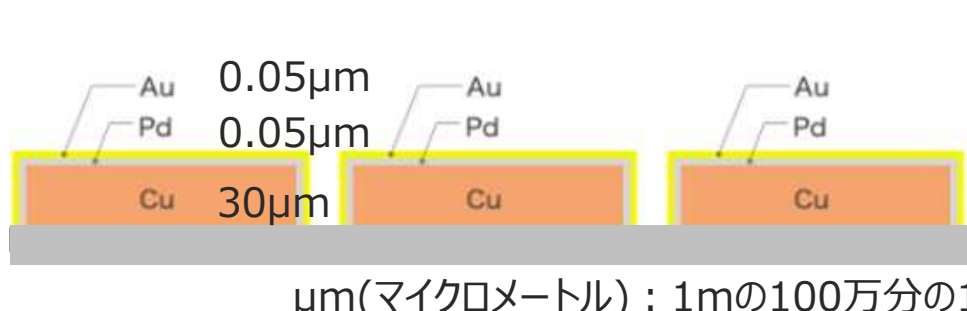
(注) 当社業績の見方のポイント

- ▶ 売上高は、薬品と一緒に貴金属を販売する場合と、薬品のみを販売する場合とで大きく変動します。
- ▶ 貴金属は、価格変動があり、かつ高価なため、売上高に大きく影響します。

用語説明①（めっき方式）

用語	用途	説明
電解めっき (電気めっき)	—	金属などの表面に電気を流してめっきする方法
純金めっき	プリント基板 半導体搭載基板	高純度な純金めっき
硬質金めっき	コネクタ プリント基板	合金成分を入れて硬くした合金めっき
パラジウム (Pd) めっき	リードフレーム コネクタ	金めっきの下地めっきとして使用される
無電解めっき	—	電気を流さず化学反応によりめっきする方法
置換めっき	プリント基板	金属ごとの溶けやすさ（イオン化傾向）を利用し、下地金属の表面を置き換えて形成するめっき方法
還元めっき	プリント基板	還元剤による化学反応を利用し、厚く形成できるめっき方法

用語説明② (めっきプロセス)

用語	説明	めっき層構成
ENIG	銅上に無電解ニッケルめっき及び置換金めっきをする方法。Electroless Nickel Immersion Goldの略 層構成はCu-Ni-Au	
ENEPIG	銅上に無電解ニッケルめっき、無電解パラジウムめっき及び置換金めっきをする方法。Electroless Nickel Electroless Palladium Immersion Goldの略 層構成はCu-Ni-Pd-Au	
DIG	銅上に置換金めっきを直接する方法。Direct Immersion Goldの略 Niめっきを省いているためENIGに比べファインピッチ対応が可能。層構成はCu-Au	
EPIG	銅上に無電解パラジウムめっき及び置換金めっきをする方法。Electroless Palladium Immersion Goldの略 層構成はCu-Pd-Au	

µm(マイクロメートル) : 1mの100万分の1

製品ラインアップ ～ラインアップ拡充と新分野開拓～

めっき方式		用途	製品ラインアップ	
電解	純金		① 粗面上でも均一な膜厚が得られる純金めっき ② 硬度の高い純金めっき	
	硬質金 (合金)		マイクロコネクタ用省金硬質金めっき	オーロブライト BAR7
	パラジウム(Pd)		PPF用薄膜パラジウムめっき (PPF: Pre Plated Lead frame)	パラブライト NANO2
無電解	置換金		中～高リンニッケルで使える置換金めっき 下地ニッケルの腐食が少ない置換金めっき ニッケル不使用置換金めっき	IM-GOLD IB2X IM-GOLD CN IM-GOLD PC
	還元金		亜硫酸金を使った薄膜還元金めっき シアン化金を使った薄膜還元金めっき	HY-GOLD HY-GOLD CN
	還元Pd		ENEPIG用還元パラジウムめっき ニッケル不使用還元パラジウムめっき	ネオパラブライト 2 ネオパラブライト DP

周辺分野

卑金属（銅、スズ、ニッケル）
合金めっき 後処理剤など

2024年3月期 第4四半期決算概況

電子部品業界の状況

- 中国の低調な個人消費や欧州における景気減速の影響からスマートフォンやパソコンなどの民生向けにおいては需要の回復ペースが鈍く弱含みで推移
- クラウド／データセンター向けや半導体装置／FA機器などの産業機器向けにおいては、生成AI向けについては堅調に推移したものの、慎重な設備投資により需要が伸び悩む
- 車載用電子部品については、自動車の電装化や電気自動車へのシフトに伴う継続的な需要増からおおむね堅調に推移したが、電気自動車の需要減速による在庫調整が見られた

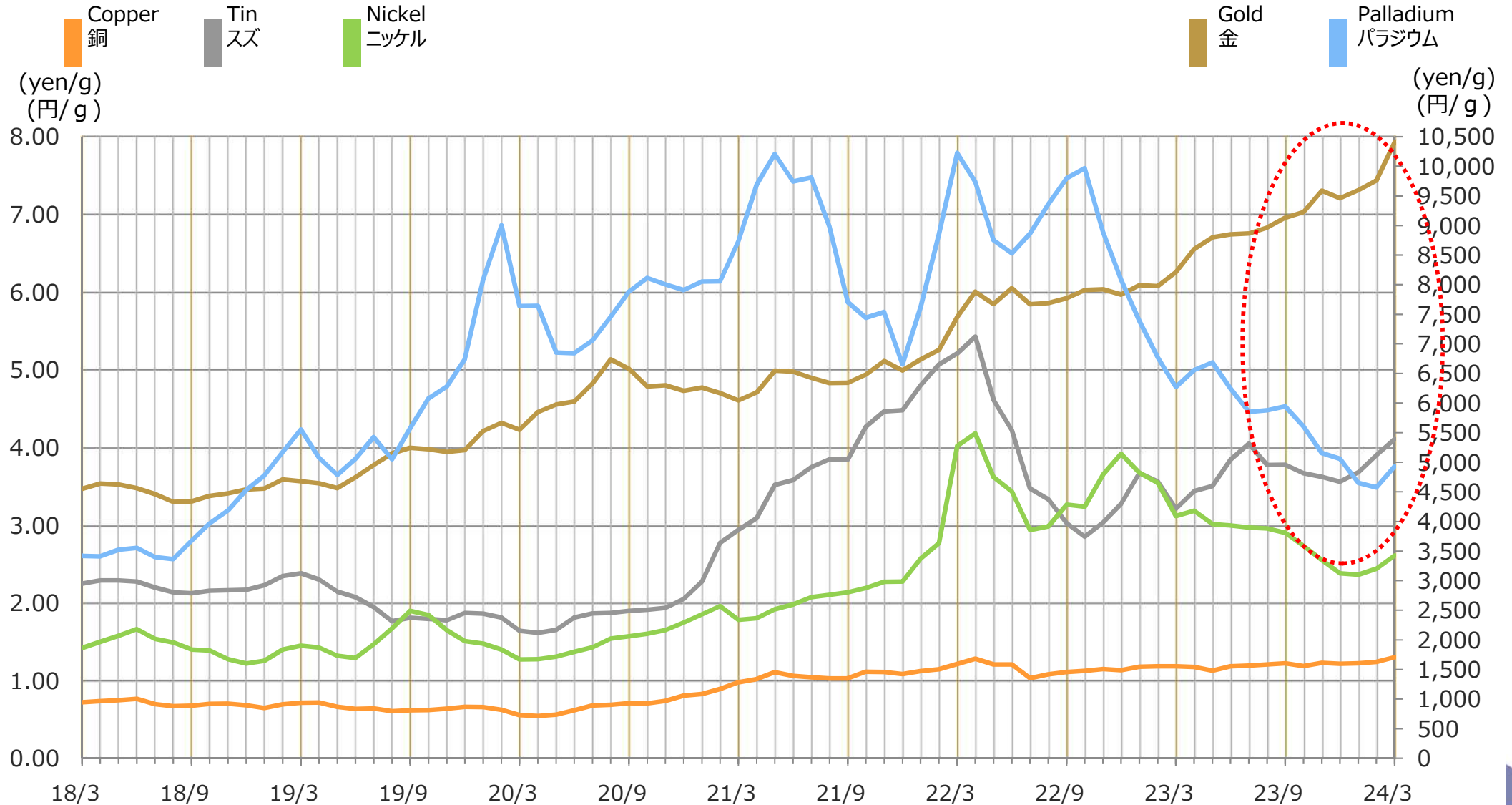
当社決算の概況

- プリント基板・半導体搭載基板用めっき薬品
生成AI向けなど一部の最先端半導体パッケージ向けは堅調に推移したものの、スマートフォン向けやパソコン向け、およびこれらのメモリ向けは緩やかな需要回復に留まる
- コネクター用めっき薬品
車載向けで堅調に推移したが、スマートフォン向けの需要回復が鈍く、また産業機械向けで需要が低迷し、低調に推移
- リードフレーム用めっき薬品
スマートフォンやパソコン向けの需要回復は依然弱含みで推移し、パラジウム価格下落の影響もあり減収

メタル相場推移

Prices of copper, tin and nickel
銅、スズ、ニッケル価格

Prices of gold and palladium
金、パラジウム価格



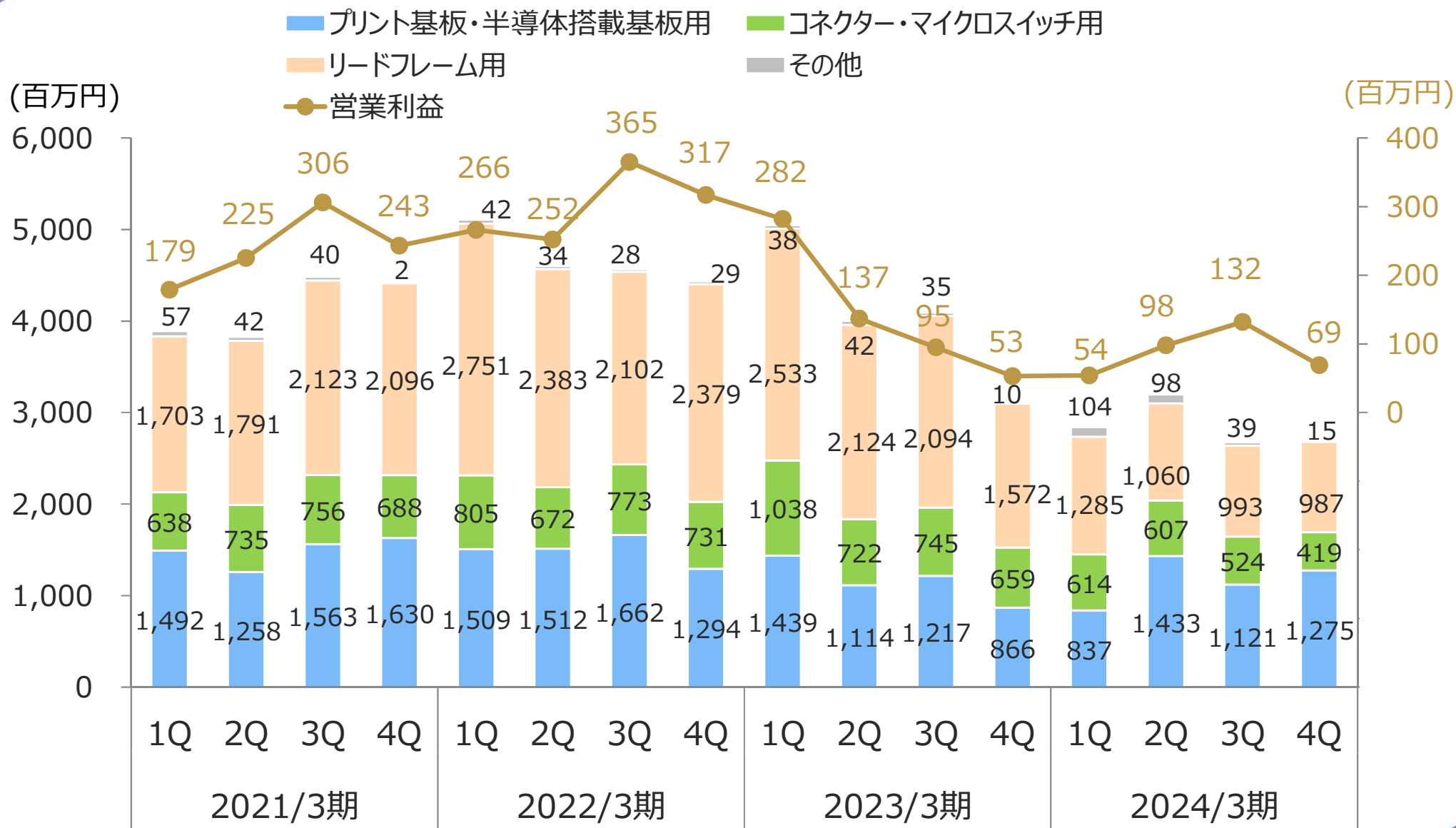
2024年3月期 決算概況

(単位：百万円)

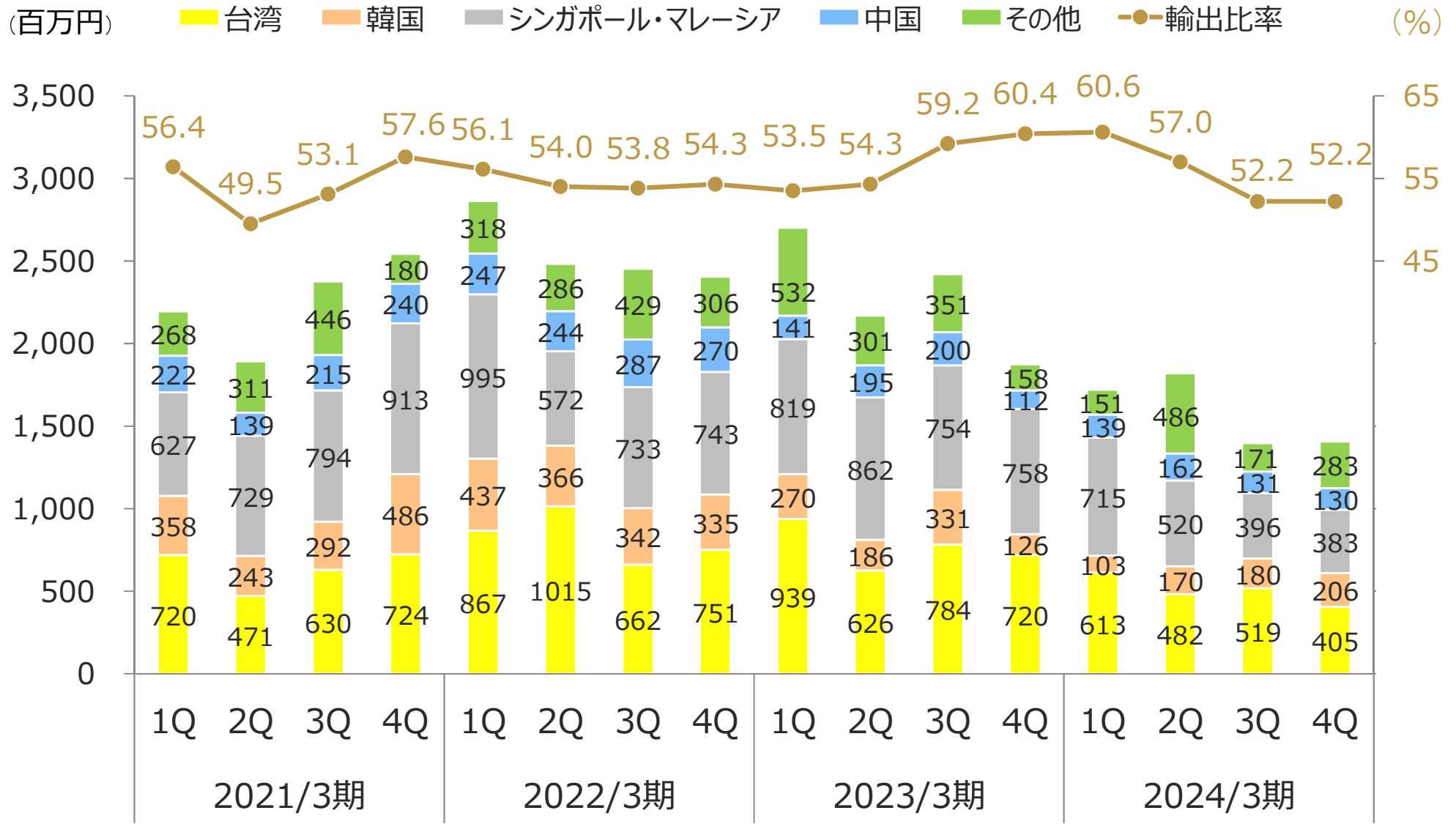
	2023/3期	2024/3期					
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期合計	増減率
売上高	16,254	2,843	3,199	2,679	2,698	11,419	△29.7%
営業利益	567	54	98	132	69	354	△37.6%
経常利益	753	154	108	216	74	553	△26.6%
四半期純利益	569	119	83	168	177	548	△3.8%
1株当たり 四半期純利益	97.82円	20.74円	14.42円	29.28円	30.82円	95.26円	—

- スマートフォンやパソコンなどの民生品向け、およびサーバ/データセンター向けのめっき薬品については緩やかな需要回復に留まったほか、産業機械向けの需要が低迷したことにより前年同期比で減収、営業・経常利益は減益
- 4Qに保有株式の売却益を計上したことで、純利益はほぼ前年並み

売上高・営業利益の推移（四半期ベース）



輸出地域別売上高の推移（四半期ベース）

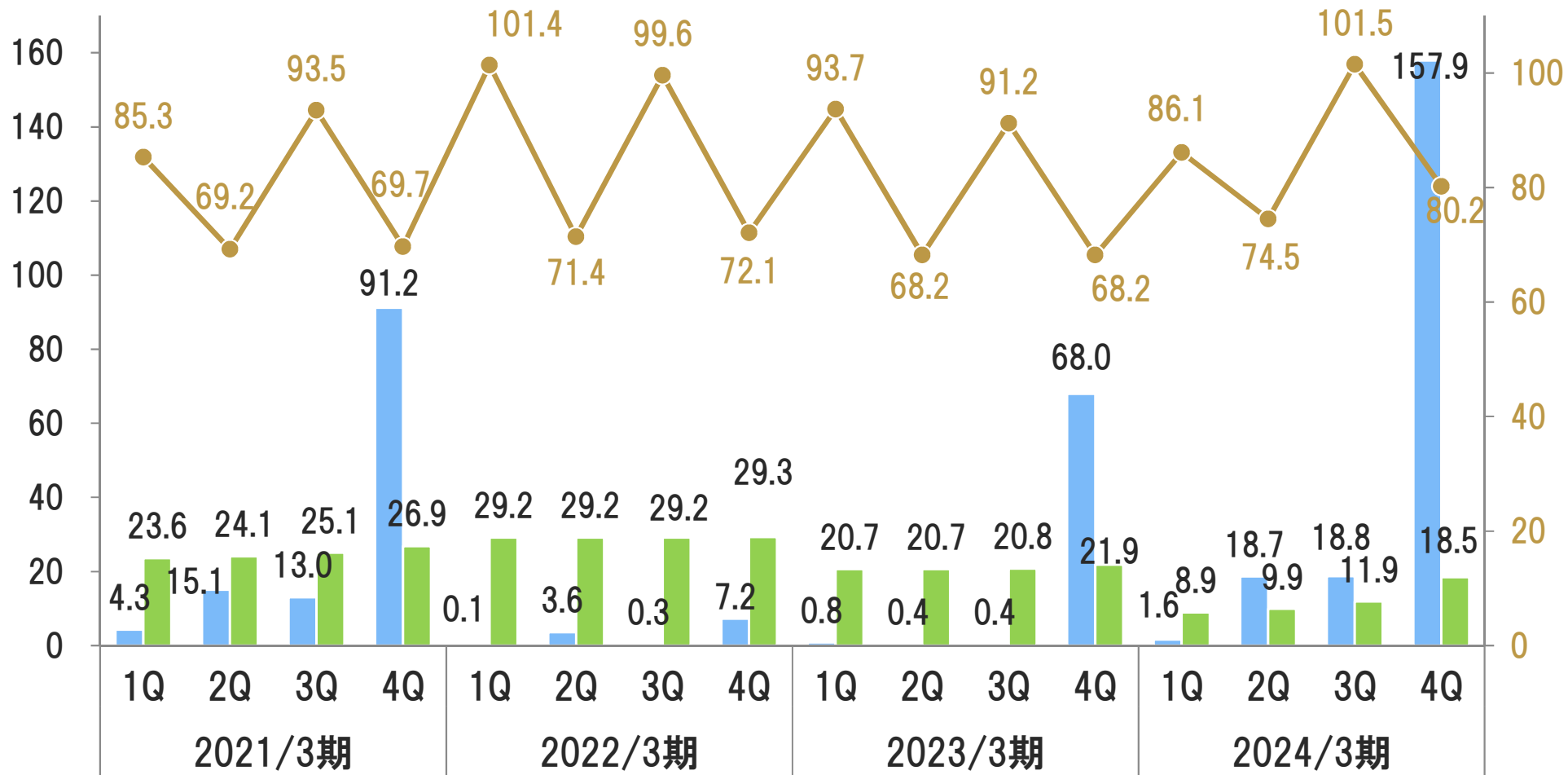


設備投資額、減価償却費および研究開発費の推移

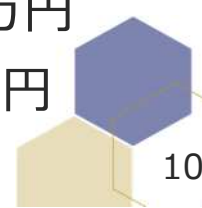
(百万円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費 ● 研究開発費

(百万円)



- 2024/3期の主な投資 : FIB(分析装置) 64百万円 生産情報システム 66百万円
- 2025/3期の主な投資予定 : プラズマ処理装置 20百万円 ホームページ更新15百万円



2025年3月期 通期見通し

(単位：百万円)

	2024/3期	2025/3期	増減
			前期比
売上高	11,419	13,000	13.8%
営業利益	354	500	41.1%
経常利益	553	680	22.9%
当期純利益	548	580	5.8%
配当	101円	126円	+25円
ROE	3.9%	4.0%	—

- 車載向けは、電装化への継続的な需要増から年間を通して堅調な推移を予想
- スマートフォンやパソコンなどの民生品向けは在庫調整一巡などによる需要反転、サーバ/データセンター向けはデジタル化投資の加速からの需要回復を予想
- 2025/3期は、売却を決定した一部の保有株式の売却益を織込済
- D O E（自己資本配当率）の採用に伴い、配当は年間126円を予定

トピックス



スタンプ式金めっき皮膜外観

スタンプ式めっき処理装置
ミカドテクノ株式会社様ご提供

世界初※のスタンプ式めっき処理用電解金めっき薬品開発

※2023年10月18日現在、当社調べ

HDP(電子部品材料の技術的解決や知識の蓄積を目的とした米国拠点の業界コンソーシアム)に参加



TPCA Show 2023出展

同時開催の学会(IMPACT2023)において
ニッケル不使用プロセスについて講演

星形状のナノ銀材料開発
(化学工業日報掲載)

BATTERY JAPAN 2024出展
(ブース面積前年比2倍)

SEMICON CHINA 2024出展

JAN

FEB

MAR

ネプコンジャパン出展
(ブース面積前年比3倍)



2023年度

OCT

APR

3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu」(ナノテラス)の
コアリション会員加入

2022年度

二次電池展(現BATTERY JAPAN)
に初出展



2024年4月 施設運用開始
(一財)光科学イノベーションセンター様ご提供

既存分野の新規開拓施策（進捗状況）

トップニュース

【ニッケル不使用プロセス(DIG・EPIG)】

次世代パッケージ技術において微細配線および良好な高速/高周波特性が求められており、当社プロセスの評価機会が増えてきている

→ 顧客との実用性や性能評価が進展中

1 認知度向上

展示会・広告等を活用し、知名度が低い市場、国内外での認知度向上

- ・海外展示会(SEMICON CHINA, ELECTRONICA)への出展を継続
- ・台湾の展示会(TPCA Show)と同時開催の学会(IMPACT2023)における講演
- ・国内展示会(ネプコン、BATTERY JAPAN)におけるブース拡大 → 来場者・引き合いともに増加

2 環境対応型製品の提案

シアン・毒劇物不使用、省資源プロセスの提案

- ・導入した評価用装置を用いてシアン・劇毒物不使用製品の实用化評価を顧客と推進中

3 トータルプロセスでの性能向上提案

協業により、装置・前処理・後処理を含んだトータルプロセスでの性能向上

- ・複数の協業先と検討・アセスメントを継続中
- ・めっき液メーカーとの協業により新規案件を獲得済 → 2024年度に顧客ライン稼働予定



■ 中期経営計画の修正について

中期経営計画のロードマップ

Redox-innovation through **D**iscovery & **D**evelopment toward **2030**

RDD2030

Redox技術を電池材料に!!

Team JPCで一丸となり、めっきで培った酸化還元の世界で付加価値を創造する

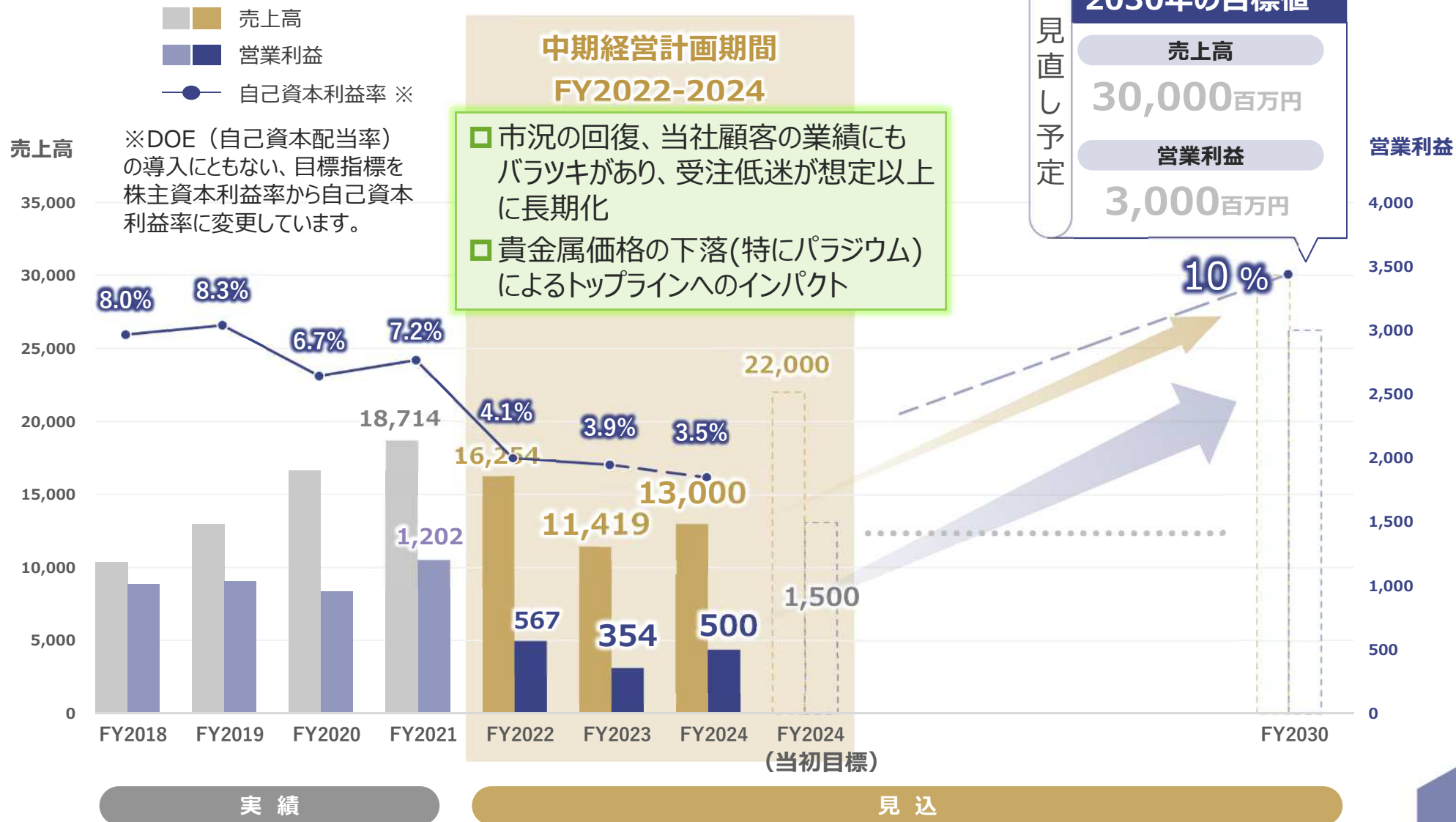


- 新しい事業領域の創出（技術投資）
- DXによる取引先の深化（営業投資）

サステナビリティ経営に向けた取り組み
能動型自律人材の採用と育成

数値目標（中期経営計画の進捗状況）

市況回復の風に乗り遅れることなく、早期に成長軌道への回帰を果たし、
 中長期のROE目標10%の達成を目指す



売上高に含まれる貴金属の将来の価格変動がない前提

株主還元策（DOE採用後）

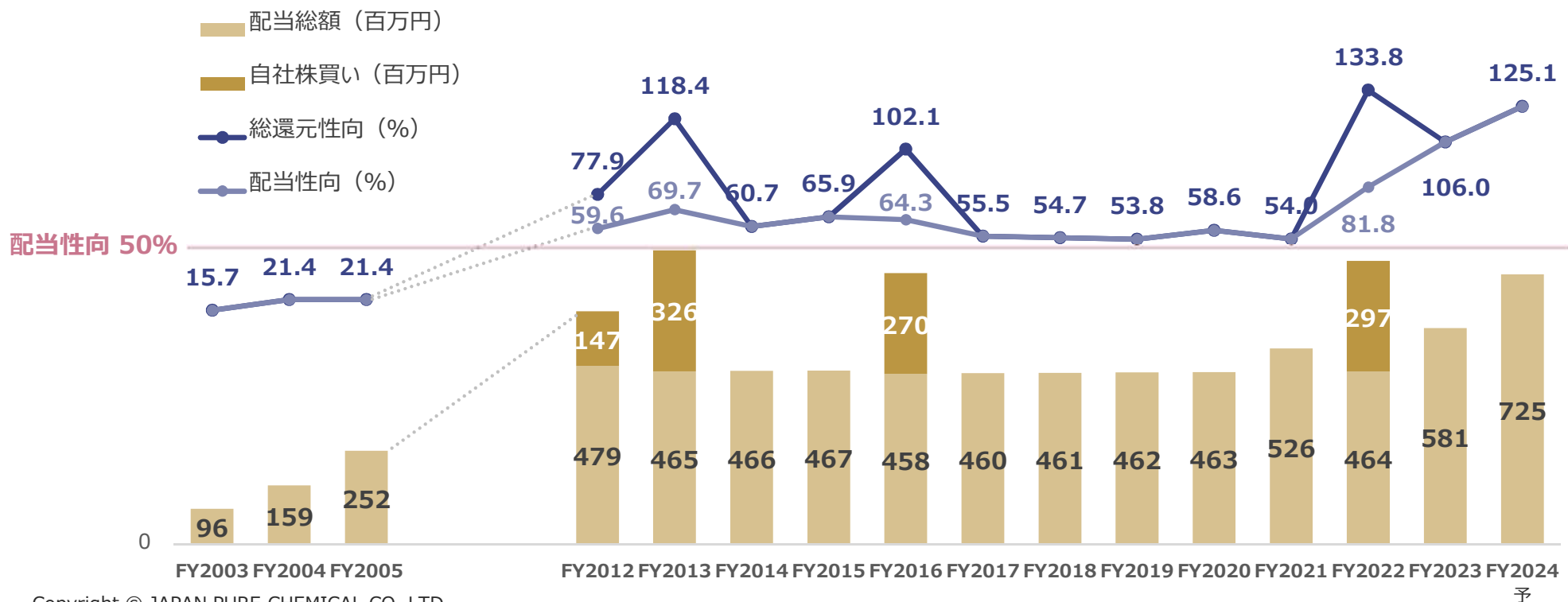
基本方針（FY2022-2024）

見直し

- 長期的な成長を目指して、資本効率と財務健全性のバランスを取る
- プライム市場上場会社として、当面の業績に大きく左右されない一定レベルの株主還元積極的に取り組む
- 配当性向に加え DOE（自己資本配当率）5%を下限とした配当方針を採用する
- 自己資本水準の最適化を図る中で、資本に関連する指標（ROE、DOE）の算出方法を従来の株主資本ベースから自己資本ベースに見直す
- 自己株式の取得についても状況に応じて、機動的に実施を検討する

配当性向・自社株買い・総還元性向の推移

※百万円以下切り捨て



- 堅調な業績により3年で25億の営業CFを創出し、「既存事業への投資」と「安定的な株主還元」に配分
- 中長期の成長投資に向けては、潤沢な手元資金と政策保有株式の流動化を活用

CASH-OUT	通常投資 FY2022~24	成長投資 FY2023~27
(1) 既存事業の成長に向けた投資 既存ビジネスの成長：インフラ強化、拡販投資	5億	
(2) 戦略投資枠の設定 M & Aの検討 技術施設（開発&製造）の拡張・増強 電池材料関連のR & D（出資・CVC等を含む）		40~50億 5~10億 5~20億
(3) 安定した株主還元の実施 配当 機動的な自社株買い	15~18億 3~5億	
	23~28億	50~80億

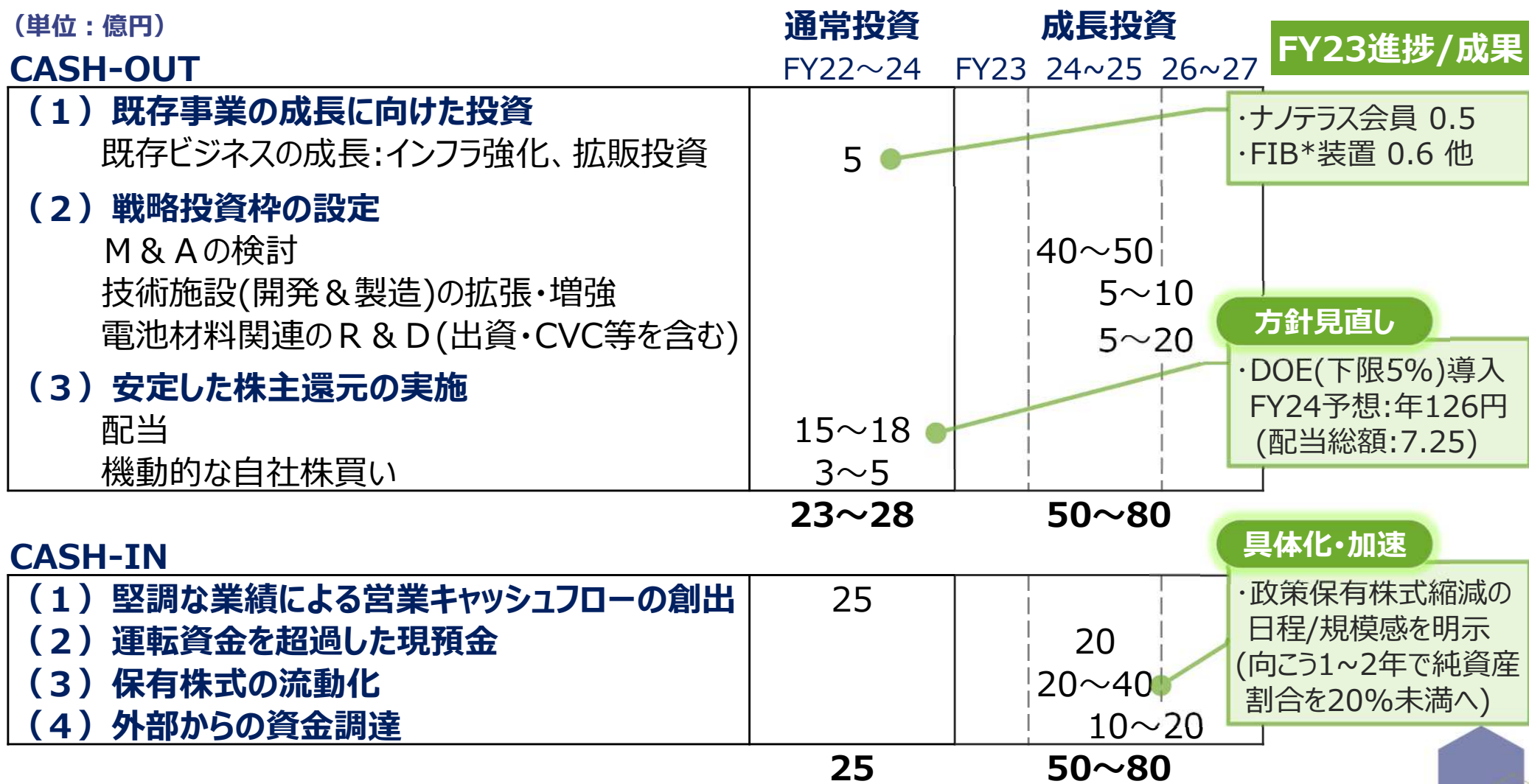
CASH-IN	通常投資 FY2022~24	成長投資 FY2023~27
(1) 堅調な業績による営業キャッシュフローの創出	25億	
(2) 運転資金を超過した現預金		20億
(3) 保有株式の流動化		20億~40億
(4) 外部からの資金調達		10億~20億
	25億	50~80億

政策保有株式は中長期の成長に向けた投資計画の原資として、活用を進めていく⇒縮減の方向

財務方針（計画の進捗状況）

- 堅調な業績により3年で25億の営業CFを創出し、「既存事業への投資」と「安定的な株主還元」に配分
- 中長期の成長投資に向けては、潤沢な手元資金と政策保有株式の流動化を活用

(単位：億円)

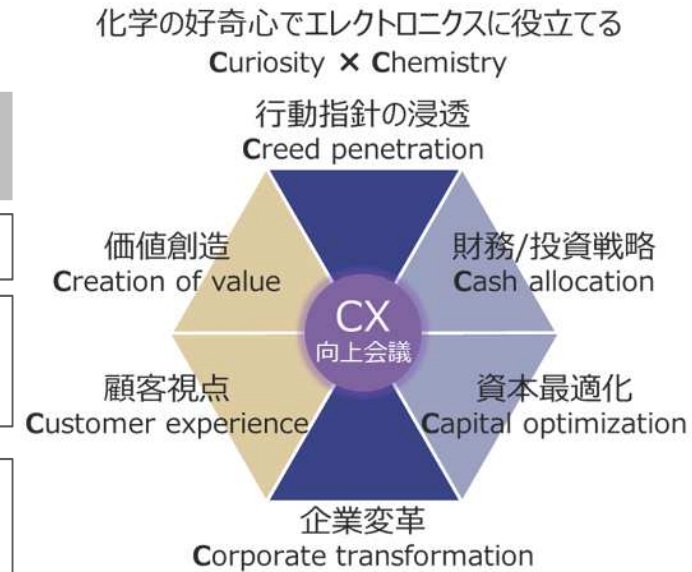


*FIB(Focused Ion Beam:集束イオンビーム)

CX向上会議について

化学の好奇心でエレクトロニクスに役立てる

カテゴリ	検討内容・施策
行動指針の浸透	<ul style="list-style-type: none"> ・能動型自律人材の育成・強化 ・従業員とのコミュニケーション深化
企業変革	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンス強化策の推進継続 ・IR/SR活動の充実
価値創造	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなビジネスモデルや成長戦略の策定 ・新技術/新製品の開発・上市
顧客視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ソリューション/提案型ビジネスの拡大 ・CRMシステム(構築中)の発展
財務/投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・保有株式の流動化加速 ・手元資金を活用した成長投資の検討・実行
資本最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・資本コストや株価を意識した最適資本構成の検討 ・DOEほか積極的/機動的な株主還元策の実施



補足資料：会社紹介

沿革

- 1971年 7月 会社設立
- 1999年 11月 MBOを実施
- 2002年 12月 JASDAQ市場に上場
- 2004年 3月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 2005年 3月 東京証券取引所市場第一部に上場
- 2019年 2月 一般財団法人JPC奨学財団設立
- 2020年 4月 公益財団法人JPC奨学財団に認定
- 2022年 4月 東京証券取引所プライム市場に移行

事業概要

- 電子部品業界の発展を支える電子材料を供給するファインケミカル企業
- 事業のターゲットを貴金属めっき薬品に絞り世界シェアトップクラス
- 変化の激しい業界にスピーディーに対応できる販売体制と技術サポート体制を構築
- 大規模な製造プラントを必要としないファブレス企業
- 電子部品の接続に用いる貴金属の使用量を最小限に抑える技術を提供し、資源の有効利用に貢献



注意事項・免責事項

当該資料で用いられている業績予想ならびに将来予測は、いずれも当社の事業に関連する業界の動向についての見通し、国内および諸外国の経済状況、ならびに為替レートの変動、その他の業績へ影響を与える要因について、2024年3月時点で入手可能な情報をもとにした予想を前提としています。

これらは、市況、競争状況、新製品およびサービスの導入およびその成否、ならびに情報通信関連産業の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。よって、実際の業績は配布資料および決算説明で用いる予想数値とは、大きく異なる場合があることをご了解いただきますようお願い致します。

この資料の著作権は日本高純度化学株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可なく資料を複製・配布することを禁じます。

お問い合わせ先

TEL. 03-3550-1048 FAX. 03-3550-1006

経営企画部

<https://www.netjpc.com>